新樹（しんじゅ）

2019
36号
10.15

前橋市男女共同参画情報誌

情報誌「新樹」は、水と緑と詩（うた）のまち前橋をイメージし、男女平等の葉が青々と茂るようにという願いを込めました。

前橋市のホームページからでもご覧になれます
前橋市　新樹　検索

多様性、認め合う社会へ …… P 2-3
男女共同参画ぶっちゃけ夫婦（めおと）ーく！ …… P 4-5
日本の子育ては、外国と比べるとどうなの？ …… P 6
きらり輝くヒトにインタビュー！ …… P 7
あなたは将来どんな仕事がしたいですか？ …… P 8

ひとりで悩まず
相談してください

DV相談 …… ☎027-898-6524
男女共同参画相談 …… ☎027-898-6520

平日（月～金）
9:00～17:00

この情報誌は、市民ボランティア編集委員と前橋市が協働で作成しました。

多様性、認め合う社会へ

～前橋から広がるLGBTの取り組み～

◆みなさんは「LGBT」という言葉を知っていますか？LGBTとは、左のセクシュアリティの頭文字をつなげた言葉で、セクシュアルマイノリティ（性的少数者）を表す総称です。

L＝**レズビアン**（女性同性愛者）
G＝**ゲイ**（男性同性愛者）
B＝**バイセクシュアル**（男女どちらも恋愛対象となる人、両性愛者）
T＝**トランスジェンダー**（身体の性と自分の思う性が一致せず違和感を持つ人※）

※「性同一性障害」は身体の性に違和感を持つ人が、ホルモン治療や性別適合手術といった医療行為を受けるための診断名です。

LGBTの人は、ある調査では13人に1人いると言われ、身近な存在ですが、さまざまな生きづらさを抱えながら生活しています。

今回は、群馬県初となるセクシュアルマイノリティ支援団体ハレルワによる前橋のまちなかでの拠点づくりと、群馬大学でこの春から運用が始まった「性の多様性（LGBT／SOGI（注1））に関する基本的考え」「性の多様性（LGBT／SOGI）に関する対応ガイドライン」について、インタビューを行いました。

マイノリティの居場所がまちなかに誕生
～ハレルワ代表 間々田 久渚さん

前橋のまちなかにLGBTなどの人々が集うことができるコミュニティスペースが誕生します。

ハレルワ代表の間々田久渚さんにお話を伺いました。

ハレルワについて

「ネットだけでなく、直接会って話せる居場所が群馬にもほしい」という想いから、2015年6月にハレルワはスタートしました。LGBTの居場所づくりと啓発活動を行っており、毎月1回の交流会には10代から70代の当事者や理解者が県内外から参加しています。啓発活動としては、自治体や学校で講演を行うほか、地域のイベントでの出展、県内企業との連携なども行っています。

間々田代表

私はトランスジェンダーの当事者として参加し始めましたが、「自分はひとりじゃなかった」という感覚になったことを覚えています。

支援が行き届くために

中学や高校で講演する機会があり、そこで目についたのは、子どもたちからのアンケートや会話の中に出てきた、「自分もゲイです」といったカミングアウトです。「親に言ったら『気持ち悪い』って言われてしまいました。だから黙っています」という話も聞きました。今、交流会で使っている施設は駅から遠く、中高生くらいの当事者は、一番支援が必要な時期なのに来ることができません。駅に近い施設を借りたり、いつでも来られる場所をつくったり、という支援が必要だという想いがずっとありました。

目指すところは同じだった

新しい施設の物件探しは立地や予算の関係で難航したのですが、知り合いから「不登校やひきこもりの若者の支援を行っているアリスの広場という団体が、まちなかで居場所づ

ご案内

コミュニティスペースが年内オープン予定！

アリスの広場とハレルワの2つの団体で運営するコミュニティスペースです。

不登校、ひきこもり、LGBTなどのマイノリティを抱える人々の拠り所になることを目指しています。

所在地：前橋市千代田町4-18-4（オリオン通り商店街）

ハレルワとアリスの広場
支援者たち

今後の詳細は両団体のホームページ等をご覧ください。

ハレルワ

アリスの広場

くりをしようとしている。一緒にやってみてはどうか？」というお話をいただきました。

ＬＧＢＴと、不登校・ひきこもりの支援は、目指すところが同じだということに気づき、２つの団体でマイノリティの居場所づくりができるというのは面白いなと思いました。ＬＧＢＴの人だけが来る場所という形にはしたくなかったので、アリスの広場と一緒にできるなんて願ってもないことです。

２つの団体が見つめる未来

ハレルワとアリスの広場、両方を利用している人もいます。一緒になったことで共通する利用者が見つかったというのも良いと思います。自分たちだけだと解決できないことがあります。違う団体や個人が上手く入り、みんなのやりたいことが叶えられる場所になるといいなと思います。アリスの広場とハレルワのどちらの利用者にも居心地の良い空間になることが一番大切なので、それを目指して一緒に頑張っていきたいです。

アリスの広場（ＮＰＯ法人ぐんま若者応援ネット）について

佐藤代表

不登校・ひきこもりの若者の居場所づくり、支援をしています。中学生～30歳位までの人たちが、群馬県各地から集まってきています。仲良くなった若者同士で話したり、スタッフに悩み相談をしたりと、堅苦しくない場所です。

火曜～土曜の10～18時にオープンしています。

群馬大学　性の多様性に関するガイドライン

～群馬大学男女共同参画推進室

オリンピック憲章に性的指向を理由とする差別禁止が盛り込まれたこともあり、日本では性的指向、性自認に関するガイドラインを作成する動きが広がっています。

県内で初めて「性の多様性（ＬＧＢＴ／ＳＯＧＩ）に関する基本的な考え」と「対応ガイドライン」を３月に策定した群馬大学男女共同参画推進室の長安めぐみ副室長にお話を伺いました。

ガイドライン作成のきっかけ

今まで性の多様性に関する相談が学生から寄せられるたびに、何とかしようと検討していましたが、個人情報の問題から前例を調べることが難しく、対応に苦労していました。

そんな中、ある学部長からガイドラインの作成を求める声が上がり、２０１８年１月に全学部から集められた各分野の教職員22名からなるワーキンググループが発足しました。

ガイドラインは、このワーキングメンバーによって何度も議論を重ね、今までの当事者の思いを汲むことを柱に丁寧に作られました。中でもガイドラインの名称は何度も会議を重ね、修正を繰り返して決められました。性的少数者を表す「ＬＧＢＴ」だけではなく、性的指向と性自認を表す全ての人が持っている属性としての「ＳＯＧＩ」を入れることで、他人ごとではなく自分の問題として考えてほしいという思いが込められています。

にじいろラインメール

相談窓口として「にじいろラインメール」を新たに設置しました。群馬大学のすべての教職員、学生を対象にメールで対応します。また、医師や社会福祉士など複数の相談員を配置して対応にあたっています。

ガイドライン作成への思い

長安副室長は「学内で一緒に作ったガイドラインです。時代によって求めていくものの変化が想定されるので、柔軟に対応できる体制を作りました。『にじいろラインメール』については、当事者と一緒に悩むセーフティネットになればと思っています。このガイドラインは10年後を考えたらいらなくなっているかもしれません。でも、10年間でこれを使い、自分の生きたい生き方を選択できる人が一人でもいてくれたら、苦労して作った甲斐があります。」とお話しされていました。

（記事：間々田・林）

長安副室長

ガイドラインの主な内容

- 学籍簿上で氏名の変更を認めることにし、その場合は保護者などへの連絡は本人の意向を尊重する。
- 学内の書類で性別情報が必要ない場合は、性別欄の廃止を進める。
- 授業などでは性別によって呼称を使い分けないようにする。

詳しくは群大HPへ→

（注１）
SOGI（ソジ）は以下の頭文字をとったもの
好きになる人の性別（性的指向：Sexual Orientation）
自分がどういう性別かという認識（性自認：Gender Identity）

令和元年度 前橋市男女共同参画セミナー　令和元年6月29日(土)

男女共同参画 ぶっちゃけ夫婦(めおと)ーく！

講師の活動紹介

露の団姫さんは兵庫県尼崎市在住の上方落語協会所属の落語家で、高座の他にもテレビ・ラジオで活動中です。小さい頃からの「死」に対する恐怖をきっかけに仏教を学びはじめ、高校在学中に人生の指針となる法華経に出会いました。落語で仏法を広めようと、高校卒業を機に露の団四郎師へ入門。3年間の内弟子修行を経て、主に古典落語、自作の仏教落語に取り組んでいます。2011年天台宗で得度(注1)、2012年比叡山行院で四度加行(注2)を受け、正式な天台僧となりました。

豊来家大治朗さんは団姫さんの夫で太神楽曲芸師です。20歳まで会社員でしたが、趣味の曲芸が高じて23歳で退社し、この世界へ。団姫さんとは違い、クリスチャンです。

ご夫婦で尼崎市の男女共同参画推進員となり、地域の方を対象にした講演会以外にも、学校に出向いて話をすることもあります。例えば静岡県にある富士市の取り組みとして、中学校で男女共同参画に関する出前授業を行っています。性別で職業を選ぶのではなく、男女それぞれ自由に職業を選択してもいいという内容です。活躍できる多様な人材が増えることで、将来的に市の活性化が見込めるということで、まさに性差を問わないダイバーシティという視点に立つお話です。

男女どちらが偉い？

男性、女性のどちらが偉いか、いろいろな考え方がありますが、団姫さんは「どちらも偉くない」と言います。性別は自分で選ぶものではなく、誰しも選んで生まれてきたものではない。生まれた場所や血液型なども選べない属性というものなので、それにより何かを決めつけることは差別になるそうです。

差別と区別について

両方とも「分ける」という意味ですが、「差別」とは物事の取り扱いに特に差をつけることで、他に比べて不当に低く扱うことを言います。例えば男女差別、人種差別などです。「区別」とは、単純に違いによって分けることを意味します。大人と子ども、赤色と青色を区別するなどです。

区別する側に差別的な意図があれば差別になります。また、区別された側が差別と感じたら、それは差別になり得るということです。

宗教の違いや家事の分担

それぞれがお互いの信仰を大切にしており、夫婦間の宗教の違いは特に問題ないそうです。結婚する時に

講師
露の団姫(つゆまるこ)さん
(落語家、僧侶)
豊来家大治朗(ほうらいやだいじろう)さん
(太神楽曲芸師(だいかぐらきょくげいし))

※注1　得度(とくど)～僧侶になること
※注2　四度加行(しどけぎょう)～密教の修行

家事についても分担しようと決め、大治朗さんも家事や育児に積極的に関わっています。

「男女共同参画とは、お互いが協力しながらできることをすればよい」とお二人でおっしゃっていました。

母親の影響

団姫さんのお母さんが育児をするうえで一つだけ心がけていたことがあったそうです。それは、「女の子だから」という言葉を使わないこと。性別にとらわれず、自分らしく育ててくれたジェンダー教育のおかげで、髪を剃ることに対して抵抗はなかったそうです。

子育てについて

母親が働いていると子育てに時間が取れず、子どもがかわいそうと言われることもありますが、働く姿を見ることで子どもが家のことを手伝い、結婚した場合もお互いをサポートするので、社会のキャリアアップにもつながるのではないか。また、ライフスタイルに合わせて、専業主婦も働く女性も自由な選択をしてほしいとのことでした。

盛り上がった夫婦対談

イクメンという言葉

育児は女性がするものという固定観念を持ってしまいがちです。育児休暇を取得して育児をする男性などを「イクメン」と呼びますが、女性が育児をすることが前提となり、男性の子育てが当たり前になっていないからそういう言葉が使われるのではないでしょうか。今後、「イクメン」という言葉がなくなるくらいの状況になったらいいという、目から鱗が落ちるようなお話でした。

男女共同参画について

男女共同参画を進めるには女性が意思決定の場に参画するよう、女性も男性も意識を変えていく必要があります。ワークライフバランス（仕事と生活の調和）も大切です。働き方を変え、生活を充実させることでスキルアップが図れ、仕事と生活が順調にいくという相乗効果や好循環が得られるとのお話もありました。

大治朗さんによる太神楽曲芸

セミナーの様子

当日は総合福祉会館の多目的ホールへ２００人余りの大勢の市民の方にご来場いただきました。

第一部の初めは団姫さんの死後の世界をテーマとした落語で、会場全体が大きな笑いに包まれていました。

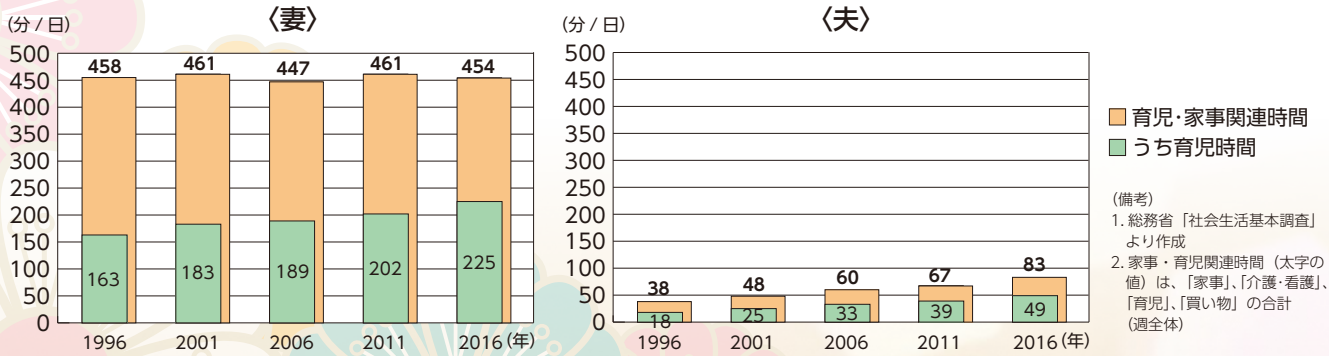
続いて大治朗さんの伝統的な太神楽曲芸が披露され、日本で唯一、大治朗さんしかできない「剣の輪くぐり」が成功した瞬間は拍手喝采でした。

第二部はご夫婦による対談で、子育て・家庭・仕事でのお互いの協力と男女共同参画意識の大切さをテーマに語っていただきました。

会場には始終笑顔があふれ、「楽しかった。またこのような男女共同参画が学べるセミナーを開催してほしい」との声が寄せられました。

（記事：中山）

【参考　６歳未満の子どもを持つ夫婦の１日当たりの家事・育児関連時間】



（備考）
1. 総務省「社会生活基本調査」より作成
2. 家事・育児関連時間（太字の値）は、「家事」、「介護・看護」、「育児」、「買い物」の合計（週全体）

日本の子育ては、外国と比べるとどうなの？

国際結婚家族の子育ては、日本とはどう違うの？

そんな疑問をカナダ人、スリランカ人と国際結婚した、2組のご夫婦に聞いてみました。

とっても陽気な双子のパパ
イヴ・ギャニョンさん 智子さんご夫妻

双子の子育ては夫婦で協力

イヴ・ギャニョンさんはカナダ出身。カナダで内装の仕事をしていたところ、日本の輸入住宅会社からの依頼で来日しました。よく行くパン屋さんで奥様の智子さんと知り合い結婚。今は保育園や自宅で英会話教室を開いています。

現在、11歳の双子の女の子がいます。お子さんが小さいときは、夫婦二人で子育てを分担し、お風呂はパパの担当。「おむつ替えもやりました。」

ギャニョンさんご夫妻

日本のお母さんのお弁当はすごい！

カナダでは、近所の高校生をベビーシッターのアルバイトとして雇うことがよくあります。その間、夫婦でデートするなど、プライベートを大切にします。部屋も新生児のうちから親子で別が一般的。

「我が家は日本式。子どもが小さい頃は『川の字』でみんなで寝ていました。」とギャニョンさん。

お子さんが学校に行くようになり、驚いたのがお弁当。カナダでは小中学校の給食がないので、お弁当を持っていくそうです。「日本のお弁当はとても手が込んでいる。カナダだと、食パンにピーナッツバターを塗って、チャック付きのビニール袋に入れておしまい。日本のお母さんはすごく頑張っている。」

ギャニョンさんは凝り性

ギャニョンさんは、食べたいものがあればレシピを調べてとことん作ります。食べたい料理に必要！と、チーズを手作りしたことも。今はカナダで買ってきたローラーブレードにはまっています。「パラグライダーもやりたいな」というギャニョンさんに、「危ないからやめてね」と智子さん。お二人の仲の良い様子がうかがえました。

子どもは分け隔てなく愛さないといけません
ピーリス・ディシャンさん 裕子さんご夫妻

セイロン紅茶を日本に輸入

ピーリス・ディシャンさんは在日20年以上のスリランカ人。スリランカは、以前はセイロンと呼ばれ、紅茶の名産地です。

ディシャンさんは茶葉の輸入や通訳・翻訳業に忙しい日々を送っています。奥様の裕子さんとは東京の洋書専門店で出会いました。結婚して奥様の実家のある前橋に住み、現在9歳、6歳、4歳の3人の男の子を育てています。

近所の子が来て一緒にご飯を食べるのは普通

「スリランカは仏教国なので、モラルの面では仏様の影響がありますね。子どもは世の中の宝なので、よその子でも大事にします。」

スリランカの寺院の遺跡

とディシャンさんは話します。

スリランカの実家は、兄弟5人、祖父母、おじ、おば、メイドさんなど十数人で暮らす大家族。子どもたちが近所の家に出入りするのはごく普通です。

「隣の子がうちに来て、ご飯を食べてお風呂に入って帰るということがよくあります。息子たちには、友達を家にどんどん連れてきなさいと言っています。日本だとあまりこのような家庭を見ないので不思議です。」

しつけは厳しく、感情的に怒らない

叱るときはよその子も叱ります。高齢者を大事にする、人の物に触るときは持ち主にことわるなど、世の中のモラルは一つだと考えるからです。気をつけているのは、親の価値観や感情で子どもを怒らないこと。親の価値観を押しつけず、子どもの考えをよく理解することだそうです。

◆国際結婚されたご家族の子育ては、まさに「ハイブリッド」。両方の国の良さを取り入れた進化版だと思います。他国の観点で日本を見直すと、意外なところに長所を発見できます。多文化の中で育つ子どもたちの将来が楽しみですね。（記事：高坂）

きらり輝くヒトにインタビュー！

新樹35号の箏曲家の鈴木創さんからのご紹介です。

メゾソプラノ歌手 松原広美さん

舞台やコンサート活動のかたわら、後進の指導にもたずさわり、昨年は熊川哲也さんとの共演等、幅広くご活躍をされています。

◇歌手になったきっかけは？

母の影響で小さいころからピアノを習い、群馬大学教育学部音楽科へ入学し、音楽の教員を目指していました。教授に声を褒められ、途中から声楽の道へ。イタリアに留学し、帰国後、東京芸術大学大学院で学び本格的にオペラデビューしました。

◇オペラについて

難しいイメージで、なかなか身近に感じられない方が多いと思いますが、オペラはストーリーがわかるとおもしろく、一度観て触れていただくと、好きになってもらえる方が多いです。

◇日本と海外の違いは？

海外では一人の歌手として男女関係なく、実力を認められます。日本は、海外に比べると女性が実力だけで認められるのは難しいように感じます。夫婦関係でも、海外ではお互いに一人の人間としてリスペクトしあう傾向がありますが、日本は一個人としてではなく、「母」や「妻」としての役割を強く求められてしまうことが多いのではないでしょうか。

◇結婚について

ピアニストの夫とは、仕事を通して出会いました。お互いに音楽家なので理解できる部分もありますし、声楽家とピアニストなのでまったく異なる部分もありますが、その時はきちんと話して意見を伝え合っています。

◇後進の指導

声楽を中心に個人レッスンや合唱団指導をしています。通っている人は、小学生から80代の方まで幅広い年齢層の方がいらっしゃいます。

◇ご主人との生活は？

舞台の準備などで群馬と東京を夫と一緒に行ったり来たりの生活です。結婚して5年になりますが、結婚したことによって、違う世界が見えてきました。夫は知識がとても豊富で、まるで図書館のような人で尊敬しています。2年前、3M音楽祭（前橋市・水戸市・松本市）のコンサートツアーを一緒に回りました。二人でディスカッションを交わすときもありますが、出来上がったものは、夫婦ならではの特別な音のハーモニーがあると言われることもあります。

家事もそれぞれ得意なことを分担して行っています。

◇読者へのメッセージ

音楽は世界共通の言語。芸術を通して豊かな心を届けたい、その情熱が自分を突き動かしています。これからも歌の道を進み、極めたいと思っています。

今年は10月に、前橋まちなか音楽祭で日韓交流コンサートを行い、来年1月には「ガラスの仮面」がオペラになります。そうした舞台を通して、音楽の素晴らしい世界を一人でも多くの人に伝えたいと思います。

とても情熱的な方で、「音楽は世界共通の言語」というメッセージと国内外で積極的に活動する姿がとても印象的でした。益々のご活躍が楽しみです。

（記事：金田）

オペラ「アイーダ」アムネリス役

あなたは将来どんな仕事がしたいですか？

性別にとらわれることなく様々な分野で活躍する人をNPO法人Next Generation（ネクストジェネレーション）のメンバーがフレッシュな視点で紹介します。

私たちがインタビューしました。

小俣さん

小板橋さん

小高さん

いつでも、安全運転!!

○女性運転士

上毛電気鉄道株式会社（上電）女性運転士の、信澤さんと小泉さんにお話を伺いました。お二人は、初めは各々の好奇心から運転士に興味を持ち、声をかけられたチャンスを機にこの仕事に就いたそうです。仕事の上で性別による大きな壁はありませんでした。女性一人でも運転ができるよう会社側が配慮し、早朝出勤を続けることで分担を行っているそうです。また、異常時の車両連結の時など力仕事やストーカー対応に関しても、社内で声を掛け合い協力しています。性別に関わらず安心して働ける、職場での工夫が感じられました。乗客を安全・安心に運ぶのが運転士の仕事であり、地域の人の生活に貢献し、必要とされる喜びにやりがいがあると語ってくれました。

上電利用者限定で、沿線各種施設での優待特典があり、10月27日には「中小私鉄フェア」が開催予定です。大胡車庫では、希少なレトロ車両・デハ101の臨時運行も行われます。この秋は上電で、地元群馬の景色をゆっくり味わいながら、電車の旅を楽しんでみてはいかがでしょうか。

（記事：小板橋）

○男性保健師

前橋市保健所で男性保健師として働く佐藤さんにお話を伺いました。当初は看護師として病院勤務をしていましたが、予防医療に興味を持ち保健師の道を選んだそうです。市の保健師は、家庭訪問や電話相談といった個別的な支援と集団検診や健康教育といった集団への支援活動を行っています。対象も乳幼児から高齢者まで幅広い年代がいて、市の関係部署と連携しながら支援を行っています。

保健師や看護師はまだまだ女性が多く、学生時代は女性の多さに圧倒されてしまった時期もありました。しかし、その経験もあって多くの女性がいる中で男性が自分一人でも気にならなくなったし、コミュニケーションも良くとれる環境なので、頑張ることができていると佐藤さんは話していました。

「自問自答を繰り返し、自分を見失わないように方向転換をすること。一番大事なのは自分の気持ちに正直であること」と最後に話してくれました。働いているうちにやりたいことが変わり、その目標を実現した佐藤さんらしいものでした。また、若い人へのメッセージとして「時間があれば本を読むこと。本を読み、自分の中に言葉をストックして、自分の考えや気持ちを適切な言葉でアウトプットできるようにすることが大事。」とも語ってくれました。

（記事：小俣）

あなたの健康を支援します!!

編集後記

●今号では国際結婚のご家族の記事を担当しました。違うようでいて基本は共通するのが、家族や子育て。ＬＧＢＴなどマイノリティも含め、多様な価値観への理解が広がるといいですね。 **（高坂　均）**

●ＬＧＢＴや多様な人々が生きやすい社会にするために、前橋から情報発信・交流できるような場所を目指します。みなさまもぜひお立ち寄りください！ **（間々田久渚）**

●取材に協力してくださった方々、本当にありがとうございます。今よりもっとお互いの個性を尊重し合える、温かい社会になりますように。 **（林　円）**

●いろいろな性があり、個としての自分を生きる。差別なんか生まれない！色々学んだ編集でした。 **（中山洋子）**

●取材をして、今まで知らなかった世界に触れることができ視野を広げることができました。皆さんにご協力をいただき、取材ができましたことを心から感謝いたします。 **（金田貴子）**

発行日：令和元年10月15日　　編　集：「新樹」編集委員
発　行：前橋市男女共同参画センター　〒371-0023　前橋市本町一丁目５－２職員研修会館１Ｆ
直通電話：027-898-6517　FAX：027-221-6200　メールアドレス：sankaku@city.maebashi.gunma.jp

《ご意見・ご感想をお待ちしています！》

この情報誌は再生紙を使用。不要になった時は廃品回収に出すか紙リサイクル庫、または古紙の日にごみ集積場所へ。